



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：2度目の72時間停戦

ガザでは、8月11日午前0時（日本時間午前6時）から72時間の一時停戦が発効した。10日に、イスラエルとハマスが、エジプトの提案を受け入れた。エジプト提案による72時間停戦は、今回が2回目。前回は、8月5日から8日まで行われた。72時間の停戦中にカイロでの停戦内容についての協議が行われる予定である。前回の交渉を行ったイスラエル代表団は、8日に帰国しているが、パレスチナ代表団はその後もカイロに滞在をしている。

8月11日の停戦発効後、大きな戦闘が発生したとの報道はない。停戦前の10日には、ガザからイスラエル南部へのロケット弾攻撃があった。夜10時頃には、テルアビブへのロケット弾攻撃があり、ハマスが攻撃を実施したと発表している。前回の72時間停戦期限が切れる直前から、ガザの武装勢力とイスラエル軍の戦闘が再開していたが、パレスチナ側のロケット弾攻撃やイスラエル軍の空爆・砲撃の規模は縮小傾向にある。

評価

イスラエルもハマースも、長期停戦の条件を変えていない。イスラエルは、ガザの非武装化を、ハマースはガザ封鎖の解除を主張している。しかし、両者の要求は、停戦合意の枠を超えた政治的な要求であり、短時間の交渉では対処できない問題である。両者が現在の停戦条件を変更しない限り、再度、停戦期間内に合意に至らず、戦闘が再開し、その後も停戦と戦闘を繰り返す可能性がある。

最初の72時間停戦が終った8日以降の両者の戦闘は、停戦前のような激しさはない。むしろ2014年はじめから7月初旬までの衝突のレベルに戻りつつある。2度目の72時間停戦の後に戦闘が再開された場合、低強度の紛争が長期間続くかもしれない。その場合、新たな死傷者の増加やガザのインフラ破壊のスピードは鈍化するとしても、7月中旬からの激しい戦闘で破壊されたインフラの復興や、家を失い避難生活をしているガザの住民への緊急人道支援の作業が先送りされ、それが新たな人道問題を生む危険性がある。

関連するかわら版は以下をご参照願います。

ガザ停戦の危うさ No. 103(2014/8/6)

<http://www.mei.j.or.jp/members/kawaraban/20140806173000000000.pdf>

ガザ停戦で合意 No. 100(2014/8/1)

<http://www.mei.j.or.jp/members/kawaraban/20140801142306000000.pdf>

イスラエル軍がガザに侵攻 (3) No. 97 (2014/7/28)

<http://www.meij.or.jp/members/kawaraban/20140728190021000000.pdf>

イスラエル軍がガザに侵攻 (2) No. 94 (2014/7/22)

<http://www.meij.or.jp/members/kawaraban/20140722162751000000.pdf>

イスラエル軍がガザに侵攻 No. 91 (2014/7/18)

<http://www.meij.or.jp/members/kawaraban/20140718142702000000.pdf>

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799